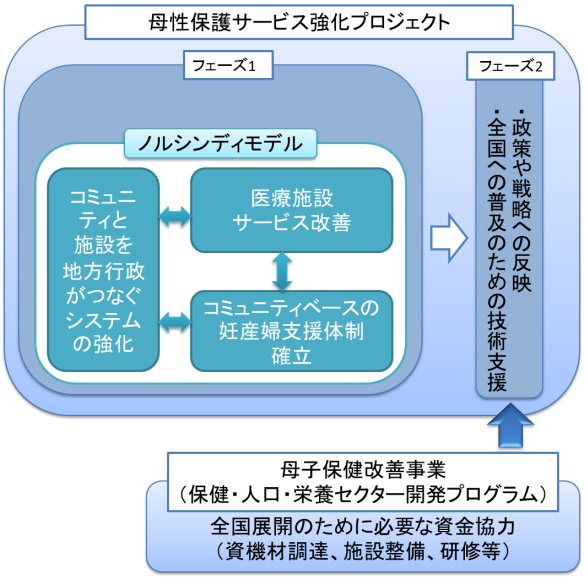
**プロジェクト情報**

- 国名：バングラデシュ
- 事業名：母子保健改善／保健システム強化プログラム［母性保護サービス強化プロジェクトフェーズ 1＆2（技術協力プロジェクト）、母子保健改善事業（保健・人口・栄養セクター開発プログラム）フェーズ 1（有償資金協力）］
- 協力期間：2006 年から 2016 年
- 相手国機関：保健福祉家族省

## 1.　プログラムの概要・背景

バングラデシュの妊産婦死亡率や乳幼児死亡率は、近年改善されていますが、アジアの他の国々と比べると、まだ高い水準です。頻繁な妊娠、保健医療サービスへのアクセスが困難であることに加え、特に、産前健診の受診率と助産師などの熟練介助者による出産介助率の低さが大きな課題となっています。そうした状況の中、ノルシンディ県で実施した「母性保護サービス強化プロジェクト（フェーズ 1）」において確立したノルシンディモデルをもととして、下図のような活動が実施されています。




また、母性保護サービス強化プロジェクトと連携して、現場レベルでの母子保健改善のために、看護師や村落開発普及員などが青年海外協力隊として派遣されています。

## 2.　ジェンダー視点から見たバングラデシュの母子保健の状況

バングラデシュの母子保健についての大きな課題である産前健診の受診率と熟練介助者による出産介助率の低さは、妊産婦本人やその家族の母子保健に関する知識の不足に加えて、社会における女性の地位が低いことが大きな要因の一つと考えられます。家庭内の意思決定権が夫や義理の母などにあり、妻は一般的に家庭内で意見を言えません。妊婦が出産に関する医療を受けるようになるためには、本人への働きかけだけでなく、家族とともに、家族を取り囲むコミュニティ全体に対して女性の健康を守るという意識の醸成が必要になります。

## 3.　ジェンダー視点に立った取り組み

ノルシンディモデルの「コミュニティベースの妊産婦支援体制確立」には、住民グループが大きな役割を果たしています。

ユニオン（最少行政区）議長からグループへ緊急搬送用リキシャ供与

母性保護サービス強化プロジェクト（フェーズ 1）では、コミュニティ活動の一環として、出産・緊急時への備えの強化を目的に住民グループが設置されました。主な活動は、地域の妊産婦の状況把握、出産等への必要経費補助のための基金設立、安全なお産にかかる啓発活動、家族の理解促進などで、グループのメンバーは男女ほぼ半数となっています。コミュニティ活動開始当初は、宗教指導者の妨害にあったり、妊産婦の義理の母の理解が得られなかったりしましたが、出産時に危険な状態になった妊婦を病院に搬送する活動などを通じて、コミュニティの信頼を得ていきました。現在では、地方自治体やコミュニティのリーダーからも支援を受けています。医療施設サービス改善とともにコミュニティ支援を進めた結果、フェーズ 1 開始当時の 2006 年と終了時の 2011 年で、ノルシンディ県の公的緊急産科施設での産前健診と施設分娩数を比較すると、前者は 8.5 倍以上、後者も 3 倍近く増加しています。

バングラデシュ政府は、ノルシンディモデルの住民グループを参考に、コミュニティサポートグループの全国への設置促進を行っています。

コミュニティ全体を巻き込んだ活動によって、家族の理解も得られ、妊娠した女性が出産に関する医療を受けることができるようになりました。そのようにして、コミュニティ全体で、女性と子どもの健康を守っています。